

Noism

RYUTOPIA Residential Dance Company



Noism 15周年記念公演

* 毎日芸術賞受賞作品

『Mirroring Memories —それは尊き光のごとく』

* 設立 15周年記念作品

『Fratres I』 (新作)

Noism 15th anniversary programme : *Mirroring Memories* / *Fratres I* (New Work)



『Mirroring Memories—それは尊き光のごとく』 (2018年) Photo : Kishin Shinoyama

【新潟公演】 2019年7月19日(金)～7月21日(日) りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館(劇場)

【東京公演】 2019年7月26日(金)～7月28日(日) めぐるパーシモンホール(大ホール)

公演について

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館の専属舞踊団・Noism（ノイズム）は、日本初の公共劇場専属舞踊団として2004年に新潟市で誕生しました。設立以来、国内はもちろん世界各地からオーディションで選ばれた舞踊家が新潟に移住し、年間を通して活動しています。りゅーとぴあで創った作品をこれまで国内外40都市以上で上演し、新潟から世界へ向けて発信する作品と日本で唯一の公共劇場専属舞踊団としての活動は、21世紀の舞踊団、ひいては現代における芸術の在り方の一面を映し出すものとして多方面から注目されています。そして設立15年の節目を迎えた今年、15周年記念公演として『Mirroring Memories—それは尊き光のごとく』と『Fratres I』を上演します。

『Mirroring Memories』は、2018年に東京文化会館で開催された《上野の森バレエホリデイ》で特別上演した作品です。バレエでもモダンでもコンテンポラリーでも演劇でもない、独自の舞台を生み出すこと、すなわち「no・ism（無主義）」の活動を続けるなかで、Noism 芸術監督の金森穰が2008年からの10年間に創作してきた10作品から“黒衣”にまつわるシーンを選出。そこに金森自身が出演する新作を加え、新解釈で構成したオムニバスとして初演しました。20世紀の偉大な振付家で金森の師でもある、モーリス・ベジャールへのオマージュでもあり、金森とNoismが自らの原点を振り返ると同時に、これからの未来に向かって進みゆく姿を想起させる作品です。本作と、劇的舞踊『ROMEO & JULIETS』の創作・上演が評価され、金森は今年1月に第60回毎日芸術賞を受賞しました。Noismの本拠地である新潟での上演は今回が初となります。

また、15周年記念作品として上演する『Fratres I』は、金森穰演出振付の最新作です。設立以来15年間、舞踊団として活動を続けていくなかで、カンパニーの体制、所属舞踊家はもちろん、私たちを取り巻く環境も常に変化してきました。その歳月を経たいま、本作の創作を通し「舞踊団」という集団で芸術活動を行うことの意味を改めて問い直します。

Noismは現在2020年8月末までの活動は決まっていますが、その先の未来は不確定です。設立から15年を経て、今なお日本で唯一の劇場専属舞踊団として活動する私たちNoismが、今だからこそ上演する2作品にぜひご注目ください。

* 毎日芸術賞受賞作品

Mirroring Memories —それは尊き光のごとく

Mirroring Memories

演出振付：金森穰

照明デザイン：伊藤雅一（RYU）、金森穰

映像：遠藤龍

出演：Noism1 + 金森穰

00 『Distant Memory』 (2018年)

01 『Nameless Hands – 人形の家』より「彼と彼女」(2008年)

02 『Nameless Poison – 黒衣の僧』より「病んだ医者と貞操な娼婦」(2009年)

03 劇的舞踊『ホフマン物語』より「アントニアの病」(2010年)

04 『Psychic 3.11』より「Contrapunctus」(2011年)

05 『Nameless Voice』より「シーン9 – 家族」(2012年)

06 劇的舞踊『カルメン』より「ミカエラの孤独」(2014年)

07 『ASU』より「生贄」(2014年)

08 劇的舞踊『ラ・バヤデーラー 幻の国』より「ミランの幻影」(2016年)

09 『ZAZA』より「群れ」(2013年)

10 『マッチ売りの話』より「拭えぬ原罪」(2017年)

11 『Träume – それは尊き光のごとく』 (2018年)



2018年初演より Photo:Kishin Shinoyama

『Mirroring Memories』初演時演出ノート

2008 年

今から 10 年前の 2008 年は、演出振付家・金森穰にととのターニング・ポイントであった。それは恩師ベジャールが前年暮れ、しかも私の誕生日に亡くなったことにより、私に原点回帰を迫ってきたからである。恩師が言ったように「死は終わりではなく、始まりである」のなら、「始まりにこそ宿る死に、生の全てが込められている」だろう。私は自らの原点に宿る死を見つめ、『Nameless Hands – 人形の家』を皮切りに、演劇性の強い物語舞踊を創作し始めたのである。

物語舞踊

演劇性の強い物語舞踊が私の原点であることの要因は、18 歳の私がベジャールの元で創作を始めたのが、演劇の授業内であったこと、そして当時、ベジャールが私の目の前で創作していた作品が、演劇性に溢れていたことが関係していると思われる。もちろんベジャールはその人生において膨大な量の作品を創作し、中には『ボレロ』に代表される抽象バレエ（儀式バレエと呼ぶべきか）も数多くある。しかしベジャールがその人生において創作し続けたのは常に、愛と死にまつわる人間賛歌（人間批判では決してない）の物語である。そしてその手法（思想）が芸術的にも文化的にも融合的であったことは史実である。

no・ism

ベジャールの思想は、ベルギーのムードラからローザヌのルードラ（私はその一期生）に至るまで、彼が創設した学校の授業科目にも顕著である。音楽／声楽、バレエ、モダンダンス、コンテンポラリー、即興、創作、演劇／サーカス、剣道など、学生はその身一つでありとあらゆる身体表現を学ぶ。「20 世紀は舞踊の世紀である」と宣言したベジャールは、20 世紀以降の舞踊家には、垣根を超えた身体的素養が求められると考えていたのである。そしてその先見の明は私の活動、バレエでもモダンでもコンテンポラリーでも演劇でもない、独自の舞台を生み出すこと、すなわち no・ism（無主義）の活動の礎となっている。

黒衣

私が創作する物語舞踊には、必ずと言っていいほど黒衣（あるいは黒衣的な存在）が登場し、私にととの死や運命、あるいは本能といった抗いようのない力として物語を牽引して行く。そこには、殆ど強迫観念と言えるほどに私の思考を支配する「私は何かに導かれている」という感覚が関与している。それを神秘主義的だと言われれば否定できないし、それを“導かれていたい”という欲望の表れだと言われれば首肯するしかない。しかし私にとってはその実感こそが自らの生に意味を与えるものであり、私はその感覚を強く信じている。そして何より、舞踊家である私にとって日々の鍛錬とは、全体的にその感覚を研ぎ澄ますためのものに他ならないのである。

10 の欠片

本作品は、2008 年からの 10 年間に私が創作してきた 10 の作品から、黒衣にまつわる（あるいはそう置き換えられる）10 のシーンを選出し、それを新作で挟み込む形で構成されている。オリジナルをご存知の観客には、黒衣に置き換えたことによる新解釈を楽しんでもらえるように思う。ベジャール・ファンにとっては自明だが、過去の作品から共通のテーマに則ったシーンを選出し、それをオムニバスの構成することは、恩師の得意とした手法である。

恩師へ

あなたへの思いを胸に、導かれるままに本作品を構想し、『Distant Memory』と『Träume – それは尊き光のごとく』を創作します。もしあなたが本作品を観たら、なんと言うでしょうか。あの深い緑色の眼差しで、何も言わずに微笑みを浮かべ、優しく頷いてくれるでしょうか。私の処女作を観た、あの時の様に・・・

2018 年 2 月 金森穰

* 設立 15 周年記念作品

Fratres I (新作) fratres = 親族、兄弟、同士

Fratres I (New Work)

演出振付：金森穰

音楽：アルヴォ・ペルト 《Fratres for strings and percussion》

衣裳：堂本教子

照明デザイン：伊藤雅一 (RYU)、金森穰

出演：Noism1 + 金森穰

Noism 設立 15 周年を記念して新作『Fratres I』を発表する。12 分程の小品だが、タイトルに番号が振られていることから明白な様に、Fratres II (同じく 12 分程) は既に構想され、冬の新作公演で発表する予定である。

こここのところなぜか小品の構想ばかり頭に浮かんでくる。私なりにその理由を探ってみると、そこに Noism の活動継続問題があることは否めない。向こう 1 年の継続は決まったものの、その先のわからない状態で、準備構想に 2 年余りを要する大作に挑む気持ちが湧いてこないのは必然と言える。

「Fratres」とはアルヴォ・ペルトの同名楽曲のタイトルであり、ラテン語で親族、兄弟、同士を意味している。しかしこれらの言葉は、核家族からお一人様へ、共同体の崩壊から孤独死へという、他者との関わりが先鋭的に希薄になりつつある現代社会においては、古語としての響きすら放っている。

このような時代に同士を求め、集団活動を標榜する舞踊団として本作品を発表すること。それはタイトルの意味するところを表現するためではない。本作品の創作及びその実演によって“その意味するところ”を、“集団的に”見出すためである。その祈り、その儀式こそが、本作品の主題である。

金森穰

演出振付・出演

金森穰 Jo Kanamori

演出振付家、舞踊家。りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 舞踊部門芸術監督 / Noism 芸術監督。17 歳で単身渡欧、モーリス・ベジャール等に師事。ルードラ在学中から創作を始め、NDT2 在籍中に 20 歳で演出振付家デビュー。10 年間欧州の舞踊団で舞踊家、演出振付家として活躍したのち帰国。2004 年 4 月、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督に就任し、日本初の劇場専属舞踊団 Noism を立ち上げる。近年ではサイトウ・キネン・フェスティバル松本での小澤征爾指揮によるオペラの演出振付を行う等、幅広く活動している。京都芸術センター運営委員。平成 19 年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成 20 年度新潟日報文化賞、第 60 回 (2018 年度) 毎日芸術賞ほか受賞歴多数。

www.jokanamori.com Twitter / @jokanamori



Photo: Kishin Shinoyama

Noism

RYUTOPIA Residential Dance Company



りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館を拠点に活動する、日本初の公共劇場専属舞踊団。芸術監督は金森穰。プロフェッショナルカンパニーNoism1（ノイズムワン）と研修生カンパニーNoism2（ノイズムツー）の2つの集団があり、04年の設立以来、国内・世界各地からオーディションで選ばれた舞踊家が新潟に移住し、年間を通して活動している。Noism1は、りゅーとぴあで創った作品を国内外で上演し、新潟から世界に向けてグローバルに活動。Noismの由来は、「no-ism = 無主義」。特定の主義を持たず、歴史上蓄積されてきた様々な身体知を用いて、あらゆるismを再検証することで、今の時代に有用な新しい形に置き換え、現代人としての身体表現を後世に伝えていこうとしている。

Photo : Noriki Matsuzaki



井関佐和子
Noism 副芸術監督



池ヶ谷奏



浅海侑加



チャン・シャンユー



ジョフォア・ポプラヴスキー



井本星那



林田海里



カイ・トミオカ



チャーリー・リャン



西岡ひなの



鳥羽絢美



西澤真耶



片山夏波*



三好綾音*

*準メンバー

Noism 15周年記念公演

『Mirrorig Memories—それは尊き光のごとく』

『Fratres I』(新作)

Noism 15th anniversary programme : *Mirroring Memories* / *Fratres I* (New Work)

新潟公演



2019年7月19日(金) 19:00, 20日(土) 17:00, 21日(日) 15:00 *全3回

会場：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館<劇場>

新潟市中央区一番堀通町 3-2

入場料：S席 4,000円 A席 3,000円 / U25 S席 3,200円 A席 2,400円 (税込・全席指定)

*U25=25歳以下対象・入場時要身分証明書。

取扱：▶りゅーとぴあ(窓口・電話・オンライン)

チケット専用ダイヤル 025-224-5521 (11:00-19:00、休館日除く)

オンライン・チケット <http://www.ryutopia.or.jp/>▶イープラス <http://eplus.jp/> (PC・MB 共通)

チケット発売日：N-PAC mate (友の会) 先行 5月17日(金) / 一般 5月19日(日)

東京公演



2019年7月26日(金) 19:00, 27日(土) 17:00, 28日(日) 15:00 *全3回

会場：めぐろパーシモンホール<大ホール>

東京都目黒区八雲 1-1-1 東急東横線「都立大学駅」より徒歩7分

入場料：5,500円、U25 3,500円 (全席指定)

取扱：▶りゅーとぴあ(窓口・電話・オンライン)

チケット専用ダイヤル 025-224-5521 (11:00-19:00、休館日除く)

オンライン・チケット <http://www.ryutopia.or.jp/>▶イープラス <http://eplus.jp/> (PC・MB 共通)

▶めぐろパーシモンホールチケットセンター ※東京公演のみ

電話/窓口 03-5701-2904 (10:00-19:00)

WEB <https://www.persimmon.or.jp>

チケット発売日：一律 5月19日(日)

主催：公益財団法人新潟市芸術文化振興財団

共催：公益財団法人目黒区芸術文化振興財団(東京公演)

製作：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



公演に関するお問い合わせ

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 Noism 広報担当：堀川

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町 3-2

Tel: 025-224-7000 (平日 10:00~18:00 / 休館日除く) Fax: 025-224-5626 Mail: info-noism@ryutopia.or.jpNoism オフィシャルウェブサイト www.noism.jp Noism NoismPR noism_official